

「甲賀市青少年活動安全誓いの日」の7月31日、甲賀市青少年活動安全誓いのつどいをあいこうが市民ホールで開催しました。当日は、市民の皆さんをはじめ、市職員、教育関係者など約740名の参加がありました。



# 市の安全管理体制の充実をめざして

つどいでは、初めに5年前に市が起こした四万十川水難事故でお亡くなりになられたお二人への黙祷をささげ、青少年の野外活動をはじめとする市の全ての事業の安心・安全の確保に全力を挙げて取り組むことをお誓いしました。続いて中嶋市長が「セーフコミュニティへの取り組みなど世界基準での安全をめざし、全ての人が安心して暮らしていける甲賀市を、市民の皆様とともにつくっていきます。」とあいさつを述べました。

その後、正木副市長が1年間の市の安全管理の取り組みを報告し、日本ヒューマンファクター研究所の桑野偕紀所長から「安心・安全のまちづくり」について講演をいただきました。

## 甲賀市の安全管理の取り組み報告

市が起こした事故の原因は、「安全管理体制の不備」、「責任意識と安全意識の欠落」、「安全管理能力と指導力不足」、また、「目的・目標達成のための役割分担の不備」の4つでした。

これらを解消する改善策として、「甲賀市事業執行安全管理体制審査委員会による事業チェック」、「安全管理マニュアルの整備」、「職員の責任能力を強化するための安全管理アドバイザーによる研修会」、各職場での安全管理推進運動」などを行ってきました。

### 1 甲賀市事業執行安全管理体制審査委員会によるチェック

市の主催あるいは共催する事業について、持続的な安全管理体制が確立されているかを管理するため平成21年度に「審査委員会」を設置しています。昨年は、各事業の審査を7回行い、安全確保に不備があるものについては、改善指導を行っています。

### 2 甲賀市危機管理計画に基づく個別の「安全管理マニュアル」の整備と見直し

市の各部署において、業務対応のばらつきを防ぎ、また担当者が交代した場合でも、今まで培ってきた安全管理が変わらずに引き継がれるよう、現在69のマニュアルが整備されています。

新たに追加された放課後児童クラブのマニュアルでは、施設の日常的な安全管理

に加え行事・イベントで想定される災害や事件、事故の未然防止のためのチェックリストが盛り込まれています。

また、甲賀市安全管理アドバイザーからは、マニュアルを重要としながらも、もっと重要なことは、マニュアルの目的を理解し、その行間を読んで行動をすることであると指導いただいています。

### 3 職員の責任能力を強化するための研修会等の持続的実施

市の安全管理アドバイザー、小松原明哲早稲田大学理工学部教授による職員研修を実施し、安全管理推進リーダーを中心とした職員が受講しました。研修では、危険予知トレーニングのほか、職場コミュニケーションの重要性などを分かりやすく指導いただきました。

他に、直接子どもたちの野外活動に関わ



▲ニンニン忍者キャンプ説明会での危険予知トレーニング

### 4 職場での安全管理推進運動の実施

職場での構成員一人ひとりが業務における責任能力・責任意識、安全管理能力、安全意識を強化するための「安全管理推進運動」に取り組んでいます。

7月を安全管理推進強調月間と位置づけ、7月1日〜15日までの期間に122の職場で事故防止や安全確保について話し合いを行うなど、安全管理推進運動を展開しました。

### 5 安心・安全を守るための機器等の導入

市内の子どもたちに安心・安全な給食の

## 今後の安全管理の取り組み

毎年の体制整備と安全運動の取り組みは定着してきていますが、さらなる強化が必要で、今後の安全管理の取り組みとして、下記の5項目を進めていきます。

- ① 職員の安全管理の基礎知識の向上と職務上の安全管理体制の強化
- ② 職場の現状に合った安全管理マニュアルの見直しと見直し作業を通じた職員全体のマニュアル理解の徹底
- ③ 職場内における世代間のコミュニケーションとチームマネジメントによる組織の危機対応力の強化
- ④ 職場におけるヒヤリハット事例の情報共有と問題・原因の整理、有効な対策の構築
- ⑤ 安心・安全な地域社会をめざしたセーフコミュニティの取り組み

このように甲賀市の安全管理をどのような状況にも対応できるように、着実に実績を積み上げ向上させるとともに、本市が真の「共生社会」になれるよう安心して安全に暮らすことのできるまちづくりを進めていきます。

## 「安心・安全のまちづくり」

元民間航空会社の国際線機長を務めた桑野氏が、自らの経験や研究を重ねた視点で「安心・安全のまちづくり」と題した講演を行いました。



▲講演される桑野氏

その中で同氏は、「安全は抽象的なものであって具体的なものでないのに対し、予知できる危機や危険は具体的な項目が存在します。そのため、安全管理を行うことは、常に具体的な危機や危険なものを防ぐ作業を続けることにあり、行政と市民の間で十分な情報交換を行いながら安全文化を創造していくことが大切である」ということを訴えました。

安全は、危険を未然に防いでこそ確保されます。どこにいても、何をしていても、必ず安全が確保されることはありませんが、市では、事故や事件が起こる可能性をあらゆる面から想定できる能力を備えるよう努力を続けていきます。